JOIN THE NUCLEAR BAN TREATY

# 核兵器のない世界をつくるには

## 「核兵器禁止条約」についてもっと知る

## 「川崎塾」開講のお知らせ

第一回講演 2018 7/29 SUN 13:30～15:30

受講費無料

会場 コープこうべ生活文化センター 定員 100名

The Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons was adopted on July 7, 2017

昨年の夏、国連において「核兵器禁止条約」が採択されました。さらに秋には、その採択に貢献をした国際 NGO「ICAN」がノーベル平和賞を受賞しています。今、国際社会は「核兵器廃絶」に大きく動いています。

それを受けて、国際舞台で長年活躍されてきた川崎哲氏を神戸に招き、標題の講座がスタートします。月に一度、川崎氏をはじめ第一線で活動されている講師から、核兵器廃絶活動の歴史、そして、廃絶への道すじを学びます。川崎氏には最終回も担当いただく予定であり、他の講師陣の紹介もしていただいております。ゆえに主催者側の思いとして、当講座を「川崎塾」と名付けることにいたしました。

核兵器をなくすことは、人類共存への最優先課題です。今、日本に住む私たちの行動と判断を、世界が注目しています。神戸においても、その注目に応えたく思っています。多くの皆さまのご参加、ご協力をお待ちしております。

## 全8回 講演予定

＊4回以上受講の方には「受講証」をお渡しします。
＊講義終了後、学生を中心とする若者を対象に少人数で講師と意見交換をする場も設定します。

| NO | 日時 | 講師 | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 7/29（日）13:30～15:30 | 川崎哲氏 | NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」ICAN国際運営委員 |
| 第2回 | 8/25（土）13:30～15:30 | スティーブン・リーパー氏 | 広島平和文化センター前理事長 |
| （第3回～8回については、裏面をご参照ください。） | | | |

塾長 川崎哲氏（かわさき あきら）
核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）
国際運営委員

ican international campaign to abolish nuclear weapons

主催 ふらっとピースネットこうべ
協力団体 生活協同組合コープこうべ・（公財）神戸YMCA・（公財）神戸YWCA賀川記念館・神戸市外国語大学
神戸栄光教会社会委員会・ピースプラットホーム・兵庫県ユニセフ協会
事務局 兵庫県ユニセフ協会

お申し込みはコチラ 兵庫県ユニセフ協会
TEL 078-435-1605
E-mail h-unicef@kobe.coop.or.jp

## 全8回 3回以降の講演予定

| NO | 日時 | 講師 | | 会場 |
|---|---|---|---|---|
| 第3回 | 9月30日（日）13:30～15:30 | 藤森俊希氏 | 日本被団協 事務局次長 | コープこうべ 生活文化センター |
| 第4回 | 10月27日（土）13:30～15:30 | 野口香澄氏 | ピースボート スタッフ | コープこうべ 住吉事務所 |
| 第5回 | 11月17日（土）13:30～15:30 | 林田光弘氏 | ヒバクシャ国際署名 キャンペーンリーダー | 神戸市外国語大学 |
| 第6回 | 12月15日（土）13:30～15:30 | 奥本京子氏 | 大阪女学院大学 国際・英語学部教授 | 神戸市外国語大学 |
| 第7回 | 1月14日（月・祝）13:30～15:30 | 相原由美氏 | 歌人（広島文学資料保全の会・在韓被爆者支援） | 兵庫県民会館 |
| 第8回 | 2月23日（土）13:30～15:30 | 川崎哲氏 | ICAN 国際運営委員　当塾長 | 神戸栄光教会（予定） |

### 仮繃帯所（かりほうたいじょ）にて

峠三吉

あなたたち
泣いても涙のでどころのない
わめいても言葉になる唇のない
もがこうにもつかむ手指の皮膚のない
あなたたち

血とあぶら汗と淋巴液とにまみれた四肢をば
たつかせ
糸のように塞いだ眼をしろく光らせ
あおぶくれた腹にわずかに下着のゴム紐だけ
をとどめ
恥しいところさえはじることをできなくさせ
られたあなたたちが
ああみんなさきほどまでは愛らしい
女学生だったことを
たれがほんとうと思えよう

焼け爛れたヒロシマの
うす暗くゆらめく焔のなかから
あなたでなくなったあなたたちが
つぎつぎととび出し這い出し
この草地にたどりついて
ちりちりのラカン頭を苦悶の埃に埋める

何故こんな目に遭わねばならぬのか
なぜこんなめにあわねばならぬのか
何の為に
なんのために
そしてあなたたちは
すでに自分がどんなすがたで
にんげんから遠いものにされはてて
しまっているかを知らない

ただ思っている
あなたたちはおもっている
今朝がたまでの父を母を弟を妹を
（いま逢ったってたれがあなたとしりえよう）
そして眠り起きごはんをたべた家のことを
（一瞬に垣根の花はちぎれいまは灰の跡さえ
わからない）

おもっているおもっている
つぎつぎと動かなくなる
同類のあいだにはさまって
おもっている
かつて娘だった
にんげんのむすめだった日を

現存する広島陸軍被服支廠（ひふくししょう）の建物

兵員の軍服や軍靴などを製造していた。外壁に厚みがあったため焼失を免れ救護所として使用された。当時の惨状を峠三吉はこの詩に描写した。